

大域的微分方程式についてのレポート

Masaaki Yamaguchi, with my son

非対称性理論によるパリティの破れから、宇宙と異次元にはそれぞれ、重力と反重力が存在しているが、ヒッグス場の方程式に宇宙での数式を入力すると、ゼータ関数だけが出力される。対称性の仕組みから異次元が対として生成される。これに関連する CP 対称性の破れは、反粒子と粒子がそれぞれ、弦理論から結合している宇宙と異次元から、反粒子が消えたのは、結合した結果、宇宙のゼータ関数が出力されたためでもある。ヒッグス場の式から、宇宙と異次元は、それぞれ別に存在している。 Ω における p 形式による外微分が、 $\mathcal{L}_x(d\Omega) = d(\mathcal{L}\Omega)$ と同値により、次の方程式が成り立つ。

$$\begin{aligned}\frac{d}{df}F &= e^{x \log x} \\ \frac{d}{df}F &= F^{(f)'} \\ &= m(x), x^{\frac{1}{2}+iy} = e^{x \log x}\end{aligned}$$

この式からゼータ関数がガロワ拡大に導かれて、ヒッグス場の式と同値になる。

$$\begin{aligned}f(x) + g(y) &\geq 2\sqrt{f(x)g(y)} \\ \frac{d}{df}F &\geq \frac{d}{df} \int \int \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m + \frac{d}{df} \int \int \frac{1}{(y \log y)^{\frac{1}{2}}} dy_m \\ \frac{d}{df} \int \int \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m &= \log(x \log x) \\ \frac{d}{df} \int \int \frac{1}{(y \log y)^{\frac{1}{2}}} dy_m &= 2(y \log y)^{\frac{1}{2}} \\ \frac{d}{df}F(x_m) &= \frac{\partial}{\partial f}F(x_m), \left(\int \int \frac{1}{(x \log x)^2} dx_m \right)^{(f)'} \\ \frac{d}{df}F(y_m) &= \frac{\partial}{\partial f}F(y_m), \left(\int \int \frac{1}{(y \log y)^{\frac{1}{2}}} dy_m \right)^{(f)'} \\ \bigoplus \frac{\mathcal{H}\Psi}{\nabla \mathcal{L}} &= \frac{1}{\frac{d}{df}F} \\ &= \frac{d}{d\Lambda} \lambda\end{aligned}$$

ヒッグス場の式を逆関数で求めると、世界面を切断した値を場として、張力として求められる。この値を単体分割した τ を多様体になると、多様体の計量で超関数を正規部分群で組み合わせ多様体として、ウィークスケールによるエネルギーにこの逆関数は至る。

$$T^{\mu\nu} = G^{\mu\nu} + \frac{1}{2}g_{ij}\Lambda$$

$$f = \tau = (T^{\mu\nu})^{-1}$$

$$T^{\mu\nu} = \int \tau(x, y) dx_m dy_m$$

$$\bigoplus (\mathcal{H}\Psi^\nabla)^{\oplus L} = i\hbar\psi$$

$$= \bigoplus (i\hbar^\nabla)^{\oplus L}$$

微分幾何の量子化は、ハイゼンベルク方程式の確率振幅における、ウィークスケールによるエネルギー最小単位のエントロピー不変量でもある。ヒッグス場のエネルギーの確率振幅でもある。ヒッグス場のエネルギーが加群分解して再接続されてもいる。大域的微分方程式とも同型である。

$$F = \frac{1}{4}x^4 + C, f = x^3, e^{i\theta} = \cos \theta + i \sin \theta$$

$$F = -\cos \theta, f = \sin \theta$$

$$\frac{d}{df}F = \left(\frac{1}{4}x^4 + C\right)^{(x^3)}, \frac{d}{df}F = (-\cos \theta)^{(\sin \theta)}$$

$$\left(\frac{1}{4}x^4 + C\right)^{(x^3)} = \left(\frac{1}{4}x^4 + C\right)^{(x^3)'}$$

$$\frac{1}{4}(x^3)^{x^3}x + \frac{1}{4}x^4(x^x)^3 = \frac{1}{4}e^{f \log f} + \frac{1}{4}x^4(e^{x \log x})^3$$

$$= \frac{1}{4}(x^{3x^3})' \cdot x^{(x \cdot x^3)'}$$

$$= \frac{1}{4}x^{x^3 \log x^3'} \cdot x^{x^4 \log x'}$$

$$= \frac{3x^2}{4}e^{3x^2 \log x} \cdot (3x^2 \log x + 1)$$

$$\frac{d}{df}F = (-\cos \theta)^{(\sin \theta)} = (-\sin \theta)^{(\sin \theta)'}$$

$$= (f)^{(f)} = ((f)^f)'$$

$$= e^{x \log x}$$